

佐久市埋蔵文化財調査報告書第47集

芝宮遺跡群

かみ しば みや
上芝宮遺跡 V

長野県佐久市大字長土呂上芝宮遺跡 V 地区発掘調査報告書

1996. 3

クロスロード開発株式会社

佐久市教育委員会

例 言

- 1, 本書は平成7年9月26日～10月5日まで発掘調査を行った、クロスロード開発株式会社の宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書である。
- 2, 発掘調査は佐久市教育委員会埋蔵文化財課が担当した。
- 3, 本書は森泉かよ子が編集・執筆した。
- 4, 本遺跡の出土遺物は佐久市教育委員会の責任下に保存されている。

凡 例

- 1, 遺構の略称は次のとおりである。
H－竪穴住居址, F－掘立柱建物址, D－土坑, P－ピット
- 2, 挿図の縮尺は次のとおりである。
竪穴住居址・掘立柱建物址・土坑実測図1/80, カマド実測図1/40, 遺物実測図1/4
を基本とし、異なる場合は図に明記してある。
- 3, 挿図中におけるスクリーントーンは以下のことを表す。
遺構 地山断面－斜線, 焼土－砂目, 柱痕－砂目極細, 粘土－点
遺物 土器器面の黒色処理－点, 須恵器断面－黒色, 灰釉陶器－砂目極細
- 4, 遺構図の海拔標高は各遺構ごとに統一し、水糸標高を「標高」として示した。
- 5, 土層・土器の色調は、1988年『新版標準土色帖』に基づいた。

目 次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯・・・・・・・・・・	1	1) H1号住居址・・・・・・・・・・	6
第1節 発掘調査に至る動機・・・・・・・・	1	2) H2号住居址・・・・・・・・・・	8
第2節 調査の概要・・・・・・・・・・	1	3) F1号掘立柱建物址・・・・・・・・	14
第3節 調査組織・・・・・・・・・・	2	4) F2号掘立柱建物址・・・・・・・・	14
第4節 調査日誌・・・・・・・・・・	2	5) 土坑・・・・・・・・・・	15
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境・・・・・・・・	2	6) ピット・・・・・・・・・・	16
第Ⅲ章 基本層序・・・・・・・・・・	3	第Ⅴ章 まとめ・・・・・・・・・・	16
第Ⅳ章 遺構と遺物・・・・・・・・・・	4	引用参考文献・・・・・・・・・・	16

第1章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査に至る動機

佐久市の北部に芝宮遺跡群がある。古墳時代から平安時代にかけての大集落が台地上に展開していることが上信越自動車道や市道4号線（曾根線）の改良工事等によって明らかになってきた。今回、クロスロード開発株式会社による宅地造成が当地に計画され、試掘調査の結果遺構が検出された。協議により、埋土により保存可能なところは埋土保存することとし、破壊を余儀なくされる道路部分のみ調査することとなった。

第2節 調査の概要

遺跡名……上芝宮（かみしばみや）遺跡V（略称NSKV）

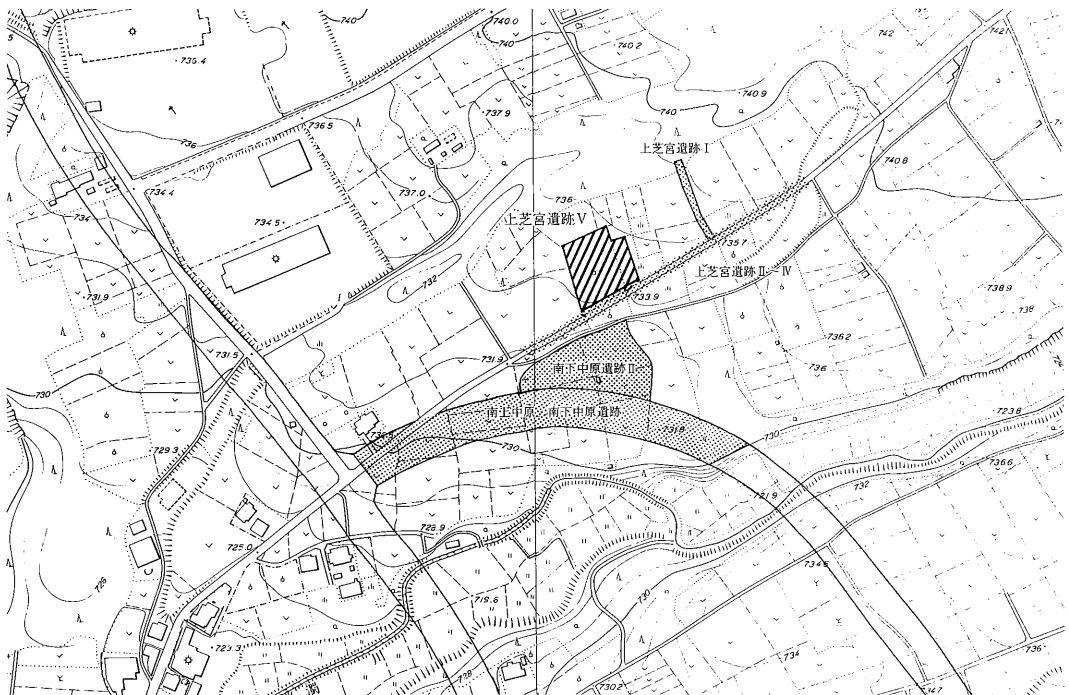
所在地……佐久市大字長土呂上芝宮779-1・778-2

開発主体者……クロスロード開発株式会社

開発事業名……宅地造成

調査期間……平成7年9月26日～10月5日

調査面積……約300m²



第1図 上芝宮遺跡V地区発掘区設定図(1:5000)

第3節 調査組織

発掘調査受託者 教育長 大井 季夫（6月退任）依田 英夫（7月就任）

（事務局）

教育次長 市川 源

埋蔵文化財課課長 戸塚 満

管理係長 谷津 恭子

管理係 田村 和広

埋蔵文化財係長 大塚 達夫

埋蔵文化財係 林 幸彦 三石 宗一 須藤 隆司 小林 真寿 羽毛田卓也

富沢 一明 上原 学

調査担当 森泉かよ子

調査員 小幡 弘子 小林 立江 林 美智子 柳沢千賀子 山崎 直

第4節 調査日誌

平成7年9月26日～29日（火～金） 機材搬入。発掘調査に入る。遺構の検出作業を開始。

4日間でH1・F1・F2の調査を終える。

10月2日（月） 雨の確率高く現場中止。

10月3日～5日（火～水） H2・単独ピットの調査、全体清掃を行い終了する。

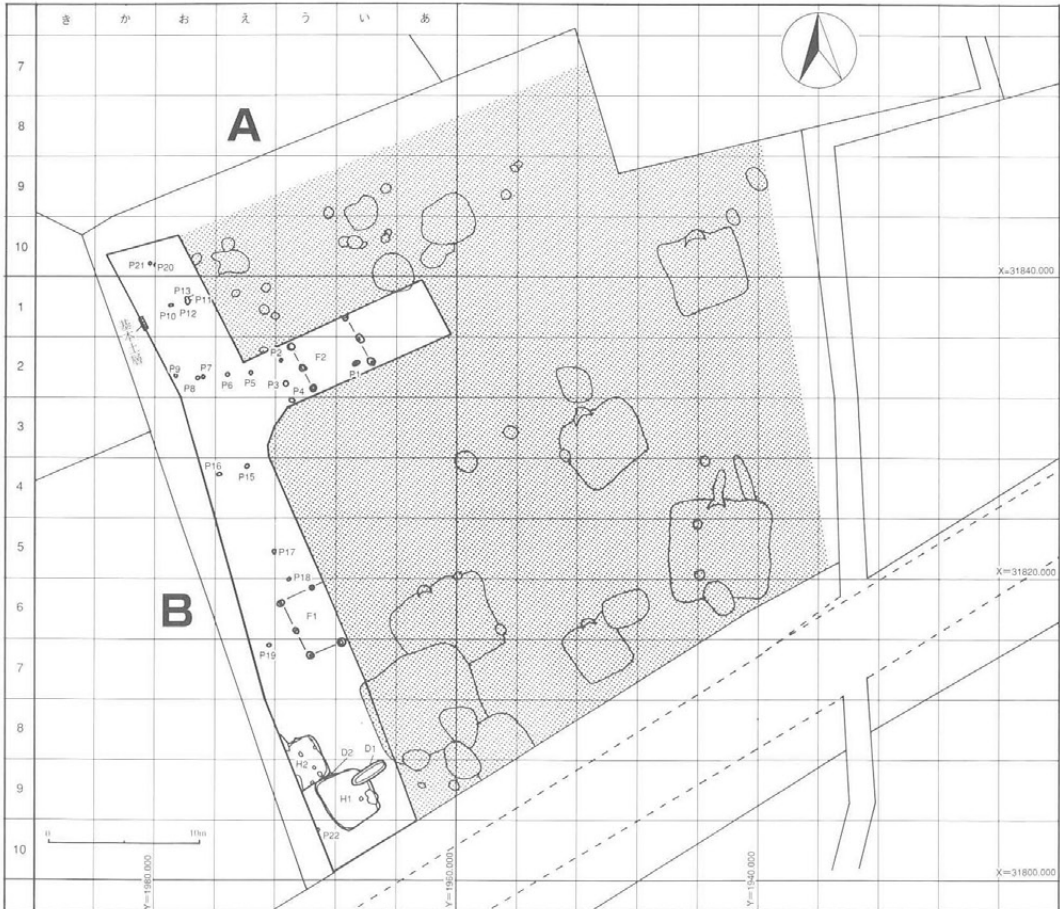
H1住は覆土が浅く、床面がはっきりせず悩み、H2住は半域が調査区外のためカマドの調査の際は狭く、身をよじりながらの調査であった。しかし、少人数・短期間で大いに奮闘した。

平成8年1月～3月 室内にて土器洗い、注記、復元、実測、トレース等を行い、報告書を刊行。

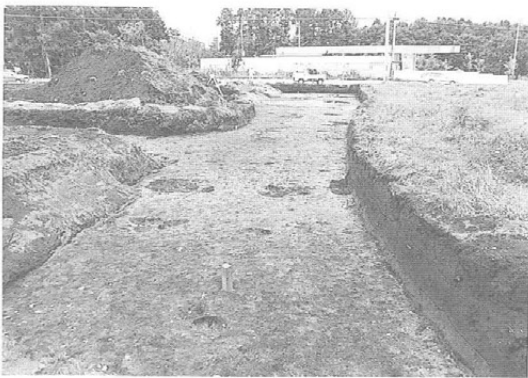
第II章 遺跡の環境

本遺跡は浅間山山麓の末端に当たり、その浅間山の噴出物である浅間第一軽石流の堆積地域であり、浸食による田切り地形が発達した地域である。台地上にはそれぞれ集落が展開されている。田切りを隔てて、北西には周防畑遺跡群（弥生から平安時代）、南には長土呂遺跡群があり（聖原遺跡では古墳から平安時代の950棟以上の竪穴住居址・850棟以上の掘立柱建物址が検出されている。）、ここ芝宮遺跡群（上信越自動車道路の調査で古墳から平安時代の集落が検出されている。）を含め大集落がこの一帯にあることがわかってきている。古墳時代から平安時代に集落を形成し、そして畑地に戻ってしまったこの集落の生計は何であったか。何を生業としたか、開発が集中している地域であり、調査によりその結果のでもの間近であろう。

第Ⅳ章 遺構と遺物



第4図 上芝宮遺跡V地区全体図・試掘調査プラン確認図



1. 上芝宮遺跡V地区全景（北より）

検出遺構	竪穴住居址	2棟
	(平安時代)	
	掘立柱建物址	2棟
	土坑	2基
	単独ピット	21個

試掘調査では、今回の宅地造成地点から他に7棟の竪穴住居址と掘立柱建物址と10基の土坑が検出されている。竪穴住居址は古墳から平安時代の土器がみられ、集落が東に延びていることが確認された。



2. 上芝宮遺跡V地区全景（西より）

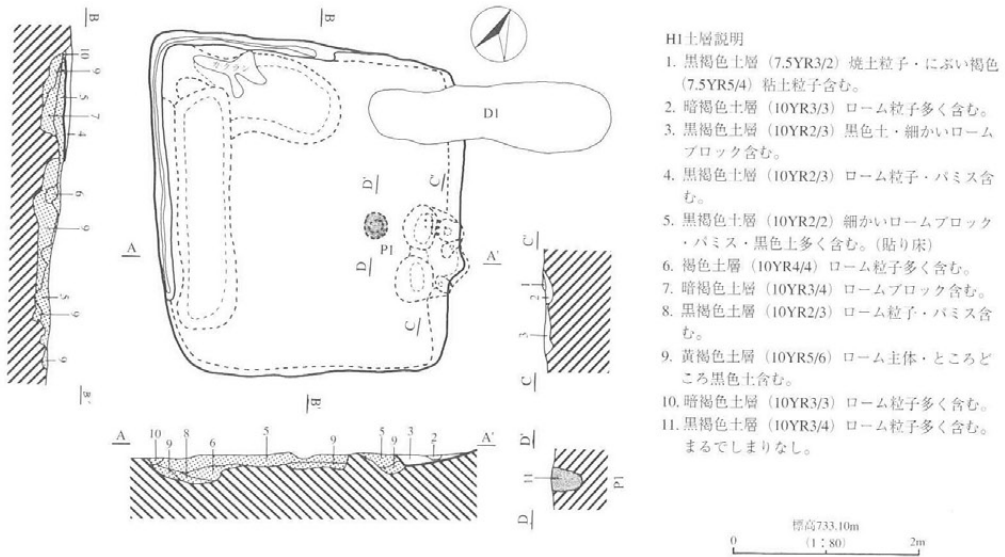


3. 上芝宮遺跡V地区全景（南より）

1) H1号住居址

遺構

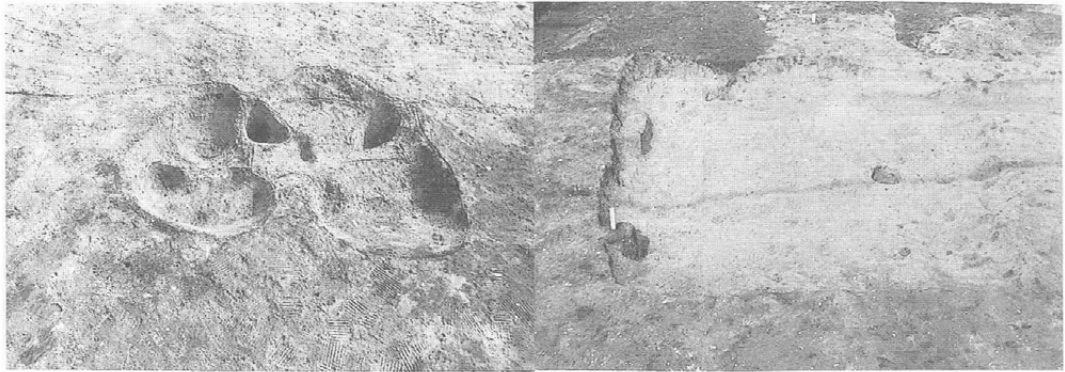
調査区は全体に南東に傾斜し、その南東隅でもっとも低地あたる南端のBⅠ-9グリットにある。検出時に削平してしまったため、床面は北側にわずかに残るのみで、壁残高は0～7cmと浅い。したがって掘り方まで下げて住居址の規模が確認できた。北東隅においても、床面の残りが悪く新旧関係はやや曖昧だがD1号土坑に切られる。東壁にカマドがあり、主軸方位はN-66°-Eを測る。



第5図 H1号住居址実測図



4. H1号住居址 (南より)



5. カマド掘り方

住居址の規模は3.6m（南北）×3.2mを測り、南北に長いがほぼ方形を呈する。床面は北東地点で一部確認されわずかに縮まりがみられた。床土はロームブロックを含む黒褐色土を入れ込んである。掘り方は北西隅が深く掘り込まれる。東壁下には土坑状の掘り込みがあり、長さ2.5m×幅0.5m深さ15cmの長楕円形の落ち込みが検出された。また、生活面で柱穴は見あたらず、掘り方で東壁カマドの西に床下ピットがあった。円形で径28cm深さ32cmを測る。

住居址覆土は黒褐色土層である。

カマドは削平され原形を残していないが、わずかに粘土と焼土がみられた。掘り方で幅50cm、奥行き33cmの範囲に落ち込みがみられた。

遺物

9片の小破片がある。古墳時代の土師器の外面削り→ミガキ調整の椀か鉢片2、糸切り後削り調整のみられる平安時代初め頃の鉢ないしは杯の破片1、いずれも内面はミガキ黒色処理してある。平安時代後葉の土師質の胎土の細かいロクロ調整の杯ないし小皿片4、不明1である。

D1と重複しており、検出時には新旧がつかめなくD1の土器も混入して処理した。D1号土坑からも同期の土器が出土しており、判断に困るところであるが、土師質で粉末質の細かい胎土の小皿片の年代をこの住居の時期とし、平安時代後葉とする。

2) H2号住居址

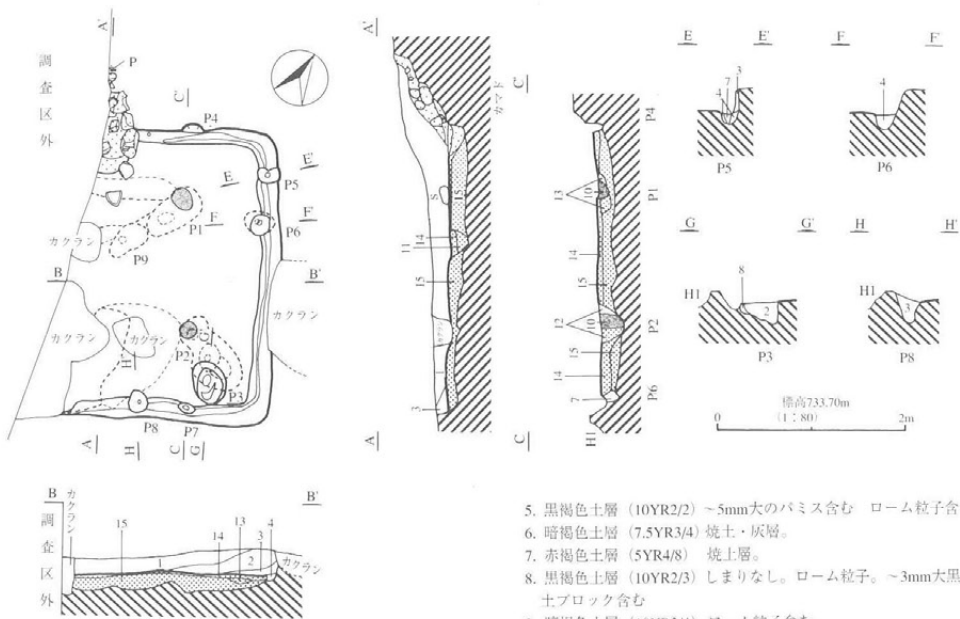
調査区南側のH1号住居址のすぐ北、Bい-8グリットにある。住居址の西半域が調査区外のため調査できなかった。遺構検出面は全体層序IV・V層である。南東でD2を切っている。壁残高は23cmを測り、良好な状態である。ただ果樹を植えたであろう穴の攪乱が3カ所あり、床面まで壊されている。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-33°-Wである。



7. H2号住居址 (東より)



8. H2号住居址 (南より)



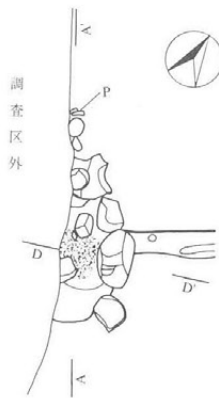
H2土層説明

1. 黒色土層 (10YR2/1) ~5cm大のパミス含む。ローム粒子含む。
2. 黒色土層 (10YR1.7/1) ~5cm大のパミス多量に含む。ローム粒子含む。
3. 暗褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子多く含む。
4. 褐色土層 (10YR4/4) ローム主体。
5. 黒褐色土層 (10YR2/2) ~5mm大のパミス含む。ローム粒子含む。
6. 暗褐色土層 (7.5YR3/4) 焼土・灰層。
7. 赤褐色土層 (5YR4/8) 焼土層。
8. 黒褐色土層 (10YR2/3) しまりなし。ローム粒子。~3mm大黒色土ブロック含む。
9. 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム粒子含む。
10. 黒褐色土層 (10YR2/3) 柱痕。しまりなし。ローム粒子含む。
11. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子多く含む。
12. 黒褐色土層 (10YR2/2) パミス・ローム含む。
13. 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム・パミス多く含む。
14. 暗褐色土層 (10YR3/3) 貼り床。しまり非常にあり。ロームブロック多く入る。
15. 黄褐色土層 (10YR5/6) ローム主体。しまりなし。

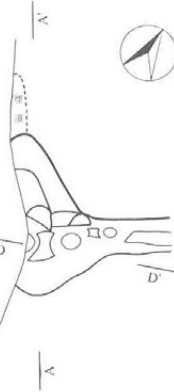
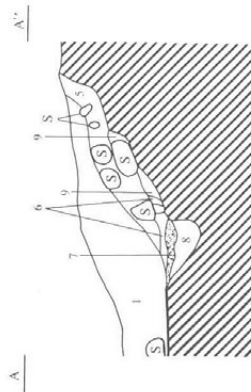
第6図 H2号住居址実測図



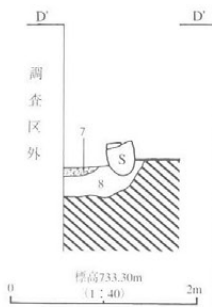
9. H2号住居址掘り方(南より)



カマド



カマド掘り方



第7図H2号住居址

カマド実測図



10. カマド (南より)

11. カマド掘り方 (南より)

住居址の大きさは2.7m (南北) × 3.0m (推定) を測り、やや東西に長いが方形を呈する。覆土は黒色土と、壁際は暗褐色土が堆積していた。床下にはロームブロックを含む暗褐色土を入れ、床面は非常によく締まっていた。掘り方は床面から20cmほど全体に下がる。住居址中央付近P9は貼り床されていた。

柱穴は主柱穴の柱痕が検出された。P1 (円形、径24cm深さ12cm) ・ P2 (円形、径19cm深さ24cm) の2個が東側で検出された。貯蔵穴であろうか南東隅にはP3 (不整円形、径42cm深さ24cm) がある。また、壁中には径20cm強の円形の壁柱穴がP4～P8の5個見つかった。

カマドは北壁中央にあるが、西側は区域外で掘れなかった。そのため断面に煙道の痕跡が観察でき、カマドの袖芯材と煙道の側壁が残っていた。カマドの袖は軽石を芯に黒褐色土で覆ったものと思われ、粘土はみられなかった。幅40cm (推定) 奥行き120cmを測る。比較的なだらかな傾斜の煙道である。使用状態では残っていなかったが煙道部には武蔵型甕を逆位に重ねて煙道に利用したらしく、底部を抜いた甕がカマド内から多く出土している。

遺物

土器類では須恵器の長頸壺口縁部片・杯・杯蓋片、土師器椀・杯・武蔵型甕・ロクロ小甕が出土した。鉄製品では刀子がある。

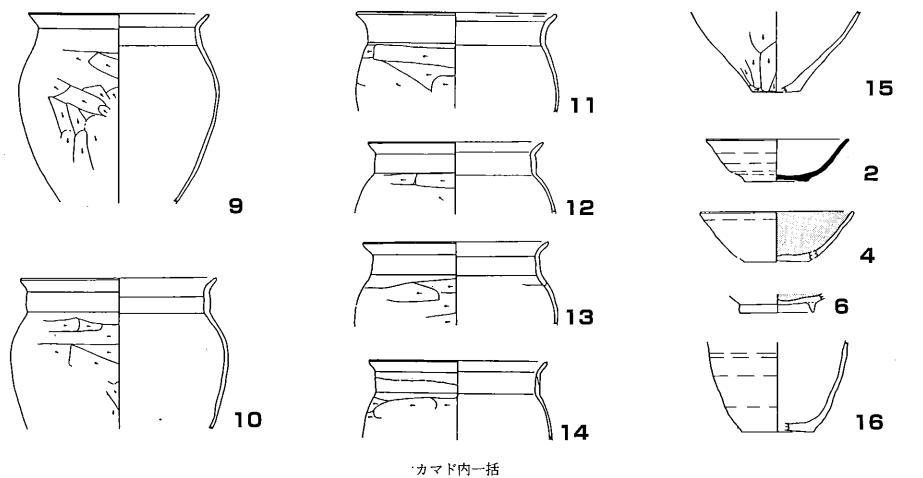
須恵器の実測個体は杯で3個体ある。焼成が軟質で、底部回転糸切りのままのものである。1は「長」の字が墨書される。

土師器の椀は口縁部まで復元できるものではなく、高台部を貼り付け、内面はミガキ、黒色処理されるものである。

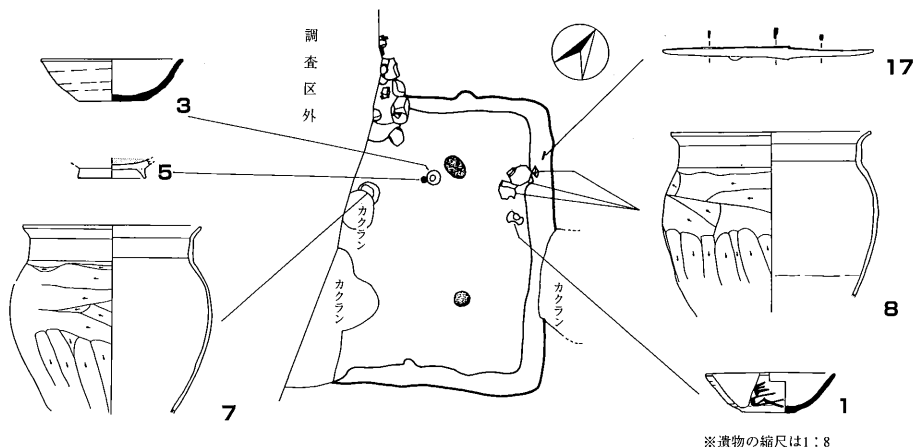
土師器甕はロクロ調整の小甕のをぞいて、いずれも武蔵型甕である。8個体まで確認できた。口縁部形態が「コ」字形を呈するものが主体である。

鉄製の刀子は完存し全長22.3cm幅1.3cmを測る。刃部が使い込まれ、凹状になっている。

これらより、この住居址は九世紀後半に位置づけられよう。

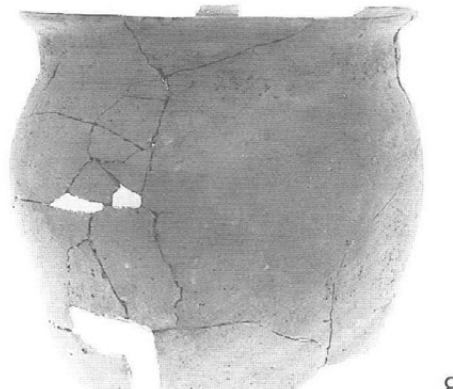
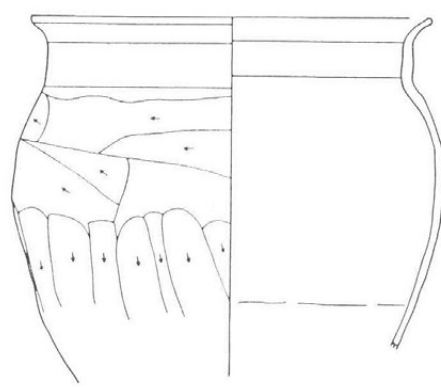
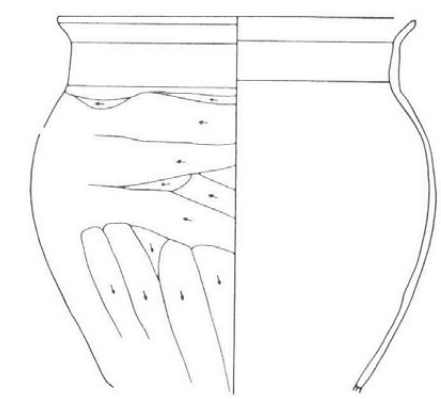
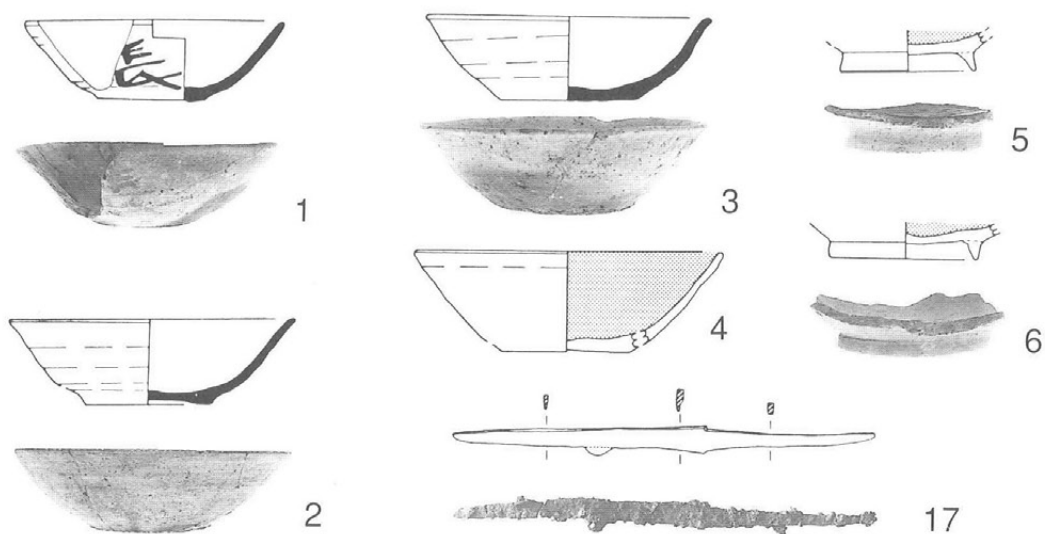


カマド内一括



※遺物の縮尺は1:8

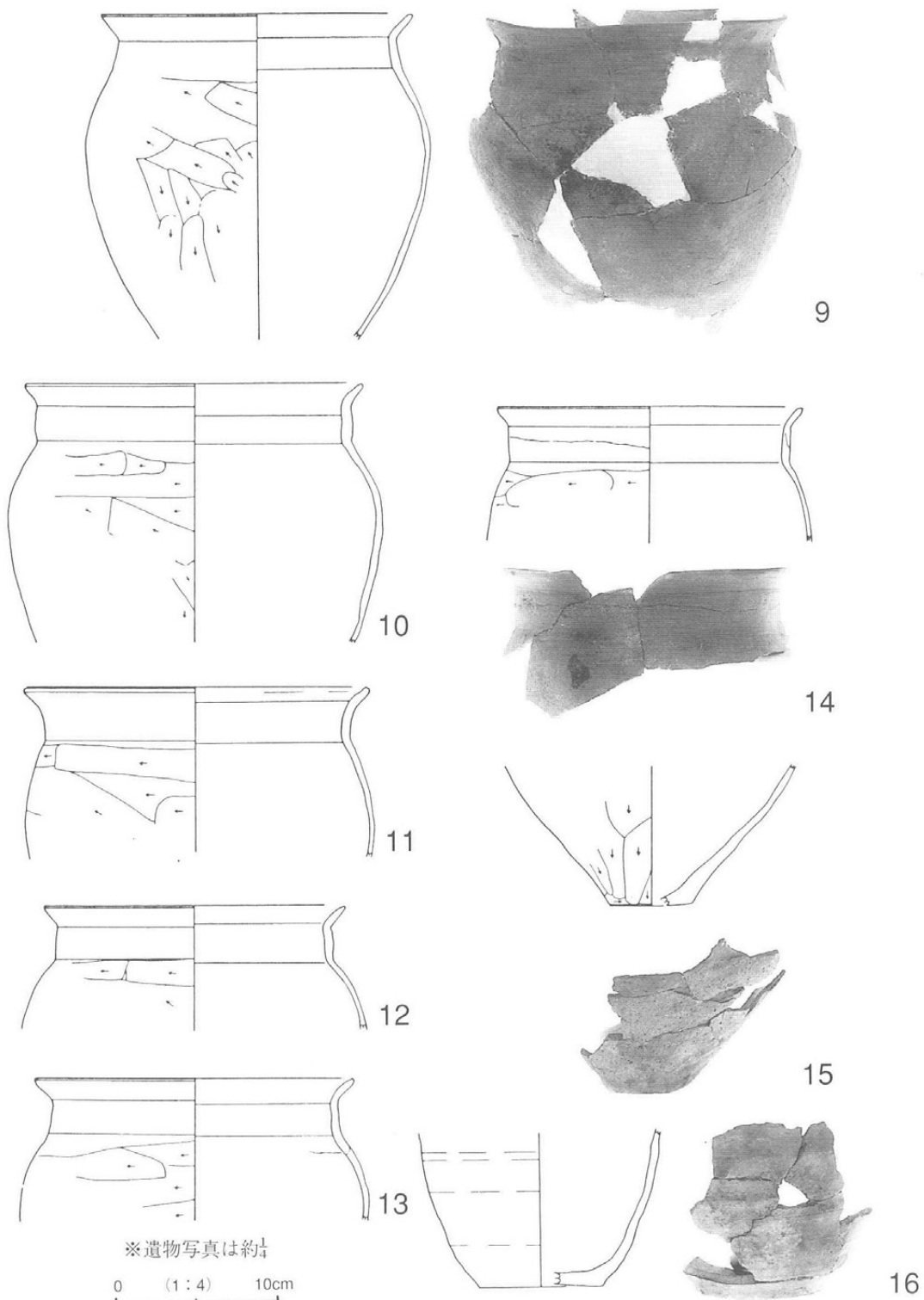
第8図 H2号住居址遺物分布図



0 (1:4) 10cm

※遺物写真は約1/4

第9図 H2号住居址出土遺物実測図(1)

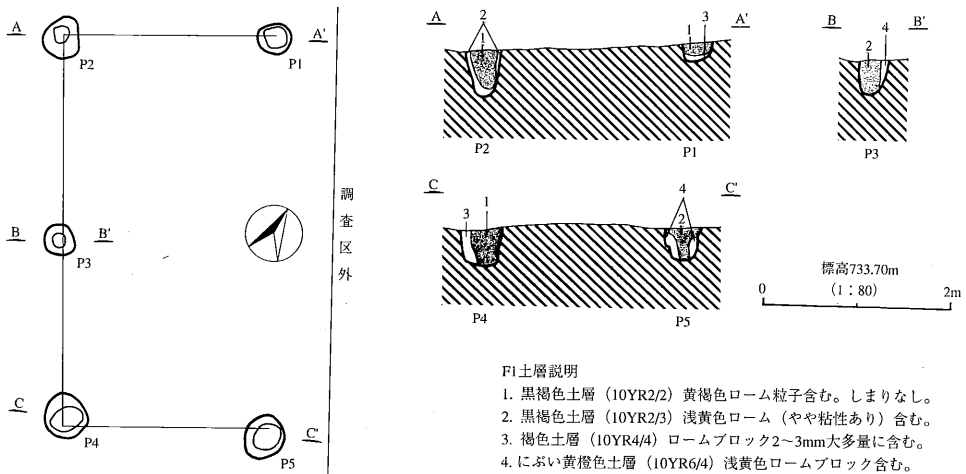


第10図 H 2号住居址出土遺物実測図(2)

3) F 1号掘立柱建物址

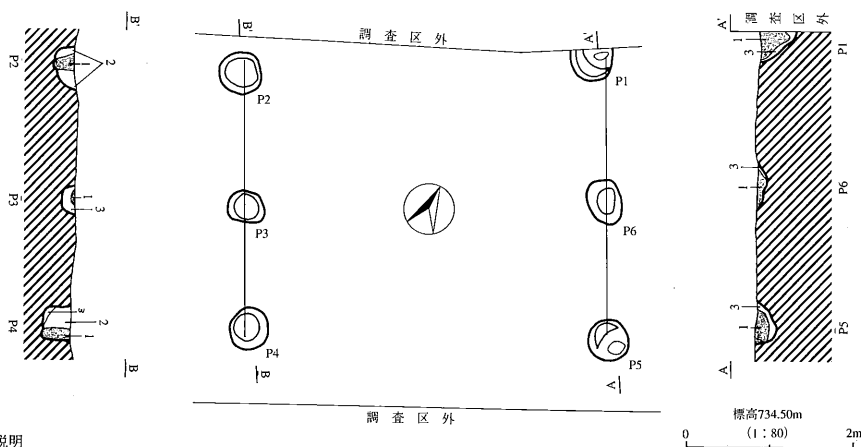
調査区中央のBう-6グリットにあり、東側は調査区外で検出できなかった。南北416cmを測る側柱式の東西棟であろう。主軸方位はN-30°-Wを測る。柱穴は径32~46cmの円形を呈し、柱痕が観察された。

遺物はP1から軟質須恵器杯の破片、P4からは武蔵甕のやや厚手の胴部片が出土している。



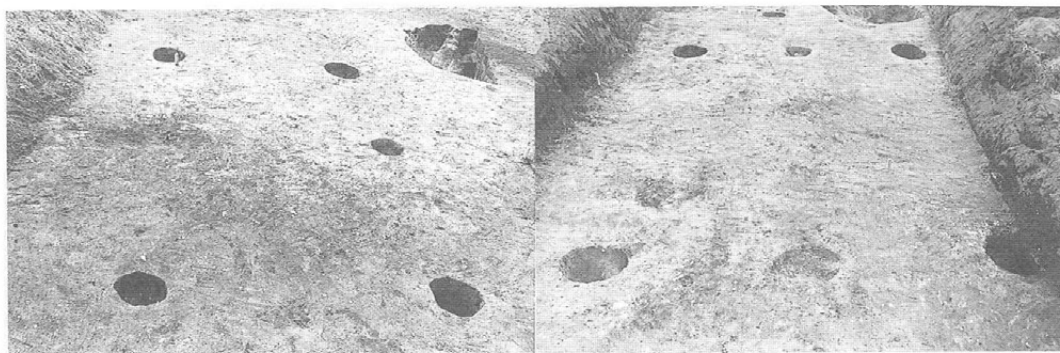
第11図 F 1号掘立柱建物址実測図

4) F 2号掘立柱建物址



第12図 F 2号掘立柱建物址実測図

調査区の北東Bうー1グリットにある。南と北は調査区外で南北の規模はわからない。東西432cmを測る南北棟で、柱穴は径49～54cmの円形であり、わずかに柱痕が観察された。主軸方位はN-61°-Wで西に振れている。遺物は出土していない。



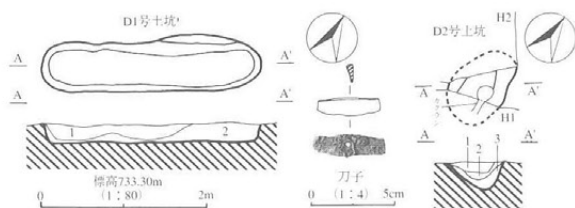
12. F1号掘立柱建物址（北より）

13. F2号掘立柱建物址（東より）

5) 土坑

D1号土坑 調査区南にあり、H1号住居址の北東を切っている。長径264cm短径68cmの長楕円形を呈する。深さ24cmで底面は平らである。遺物は土器片と刀子が出土している。胎土が粉末質で土師質の皿口縁部片と鉄製刀子刃部の破片が出土している。平安時代後葉の時期が当てられる。

D2号土坑 調査区南H1・H2号住居址の間にあり両者にきられる。わずかに残り、東西で72cm深さ32cmを測る。遺物は出土していない。



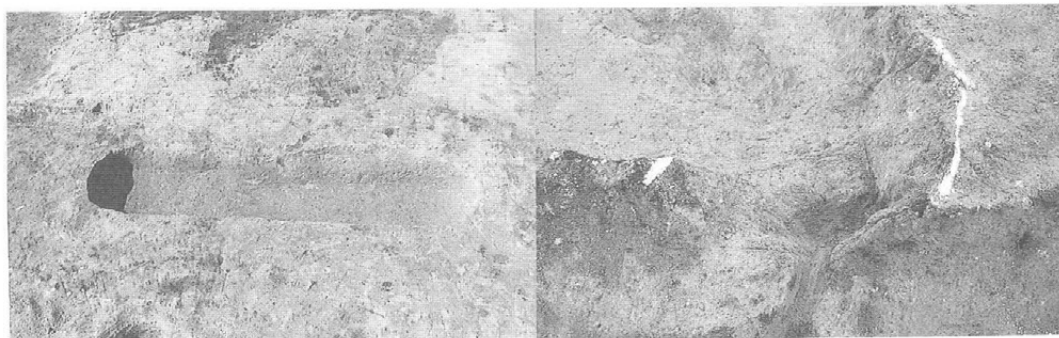
D1土層説明

1. にぶい黄褐色土層（10YR5/4）ローム粒子多量に含む。バミス1cm～3cm大含む。
2. 褐色土層（10YR4/6）ローム主体。黒色土粒子含む。

D2土層説明

1. 黒褐色土層（10YR2/3）ローム粒子～5mm大バミス含む。
2. にぶい黄褐色土層（10YR4/3）黒色土含む。
3. 褐色土層（10YR4/4）ローム主体。

第13図D1・D2号土坑実測図



14. D1号土坑（南より）

15. D2号土坑（南より）

6. 単独ピット

調査区から21個の単独ピットが検出されている。遺構確認面を下げ過ぎてあるため、上部が削除され、掘立柱建物址に組めたものもあるかもしれない。

第1表 単独ピット一覧表

番号	出土位置	規模(cm)	形態	覆土
		長径×短径×深さ		
P1	Bい2	42×27×42	楕円形	1.褐色土層 (10YR4/4) 2.褐色土層 (10YR4/6)
P2	Bう2	48×43×23	円形	1.黒褐色土層 (10YR2/2) 2.褐灰色土層 (10YR5/1)
P3	Bう2	43×38×13	円形	1.黒褐色土層 (10YR2/2) 2.褐色土層 (10YR4/6)
P4	Bう3	43×41×17.5	円形	1.黒褐色土層 (10YR2/2) 2.褐色土層 (10YR4/6)
P5	Bえ2	16×15×10	円形	1.黒褐色土層 (10YR2/2) 2.褐色土層 (10YR4/6)
P6	Bえ2	42×34×13	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR2/2) 2.褐色土層 (10YR4/6)
P7	Bえ2	31×28×9	円形	1.黒褐色土層 (10YR2/2) 2.褐色土層 (10YR4/6)
P8	Bお2	34×28×11.5	円形	1.黒褐色土層 (10YR2/2) 2.褐色土層 (10YR4/6)
P9	Bお2	28×26×10	円形	1.黒褐色土層 (10YR2/2) 2.褐色土層 (10YR4/6)
P10	Bお1	59×37×11	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.黒褐色土層 (10YR2/2)
P11	Bお1	60×41×26	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR3/2) 2.黒褐色土層 (10YR2/2)
P12	Bお1	47×39×22	不整楕円形	1.黒褐色土層 (10YR2/1)
P13	Bお1	24×24×7	円形	1.黒褐色土層 (10YR2/2)
P15	Bえ4	42×31×17	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR1.7/1)
P16	Bえ4	45×37×9	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR2/2) 2.褐色土層 (10YR4/4)
P17	Bえ5	32×25×17	楕円形	1.黒色土層 (10YR1.7/1) 2.暗褐色土層 (10YR3/4)
P18	Bう6	30×22×16	楕円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.褐色土層 (10YR4/4)
P19	Bえ7	38×34×26	円形	1.黒色土層 (10YR1.7/1) 2.褐色土層 (7.5YR4/4)
P20	Aお10	23×21×13	円形	—
P21	Aお10	34×28×6	円形	1.黒褐色土層 (10YR2/3) 2.褐色土層 (10YR4/4)
P22	Bう10	38×(30)×17	円形	1.黒色土層 (10YR1.7/1) 2.黒褐色土層 (10YR2/2)

第V章 まとめ

集落のわずかな調査ではあるが、試掘調査を含め集落の全体像復元の一資料を加えることができた。平安時代の9世紀後半から12世紀の遺構が検出された。周辺でも多く検出されており、集落がどのように展開してきたか今後解明してみたいところである。

調査に関係した皆様に対して、調査を無事終了し、報告書を刊行できたことに感謝いたします。ありがとうございました。

参考文献1993佐久市教育委員会『上芝宮』

1993佐久市教育委員会『南中原・南下中原遺跡』・1995『南下中原II』

第2表 H2号住居址出土土器観察表

番号	器種	法量 (cm)	器形の特徴	調整	備考
9-1	須恵杯	13.8 4.4 5.7	口縁部直線に近く外傾。	ロクロ横ナデ 底部回転糸切り	3/4残 色調10YR6/6明黄褐色・6/2灰黄褐色 胎土まれに粗い砂粒含む(軟質) 墨書土器『長』
9-2	須恵杯	(15.1) 4.5 6.8	口縁部内湾し外傾。端部外反気味。	ロクロ横ナデ 底部回転糸切り	1/2残 色調2.5YR7/2明赤灰色 胎土まれに粗い砂粒含む
9-3	須恵杯	15.2 4.5 7.2	内湾気味の口縁で、端部で外に開く。	ロクロ横ナデ 底部回転糸切り	完形 色調5Y7/1灰白色 胎土まれに粗い砂粒含む
9-4	土師杯	(16.4) (5.3) (6.8)	大振りの杯。	外面ロクロ横ナデ 内面ミガキ黒色処理 底部回転糸切り	1/4残 色調外面5YR6/6橙色 内面7.5YR 1.7/1黒色 胎土ごくまれに粗い砂粒含むが緻密
9-5	土師碗	— 2.1 7.2		内面ミガキ黒色処理 外面ロクロ横ナデ 底部回転糸切り後貼り付け高台	底部のみほぼ完存 色調 外面7.5YR7/4にぶい橙色 胎土 細かい砂粒含む
9-6	土師碗	— 2.0 7.8	底部が大きい。	内面ミガキ黒色処理 外面ロクロ横ナデ 底部回転糸切り後貼り付け高台	底部のみほぼ完存 色調外面7.5YR5/6明褐色 内面5YR5/6明赤褐色 胎土ごくまれに粗い砂粒含むが緻密
9-7	土師甕	(19.0) <19.8> —	内外面すす付着。 武蔵甕。	外面口縁部横ナデ 胴部ヘラケズリ 内面口縁部横ナデ 胴部ナデ	1/2強残 色調7.5 YR4/6褐色 胎土緻密 焼成良好
9-8	土師甕	(21.2) <19.4> —	口縁部形「コ」の字形。 武蔵甕。	外面口縁部横ナデ 胴部ヘラケズリ 内面口縁部横ナデ 胴部ヘラナデ 下部ナデ	下部欠損の他はほぼ完存 色調7.5YR 6/6褐色 胎土緻密 焼成良好
9-9	土師甕	(19.2) <20.2> —	口縁部形「コ」の字形がくずれている。 武蔵甕。	外面口縁部横ナデ 胴部ヘラケズリ 内面口縁部横ナデ 胴部ナデ	下部なし 1/2残 色調5YR4/4にぶい赤褐色 胎土緻密 焼成良好
10-10	土師甕	(20.8) <16.1> —	口縁部形「コ」の字形。 武蔵甕。	外面口縁部横ナデ 胴部ヘラケズリ 内面口縁部横ナデ 胴部ナデ	口～胴部1/4残 色調10YR6/6明黄褐色 胎土緻密
10-11	土師甕	(21.4) <10.4> —	口縁部形「コ」の字形。 口縁部内湾。 武蔵甕。	外面 口縁部横ナデ 胴部ヘラケズリ 内面 口縁部横ナデ 胴部ヘラナデ	口～胴部1/4残 色調7.5YR6/6褐色 胎土緻密 焼成良好
10-12	土師甕	(18.6) <8.5> —	口縁部形「コ」の字形。 武蔵甕。	外面 口縁部横ナデ 胴部ヘラケズリ 内面 口縁部横ナデ 胴部ヘラナデ	口～胴部1/4残 色調2.5YR6/6褐色 胎土緻密 焼成良好
10-13	土師甕	(19.8) <9.0> —	口縁部形「コ」の字形。 武蔵甕。	外面口縁部横ナデ 胴部ヘラケズリ 内面口縁部横ナデ 胴部ナデ	口～胴部1/4残 色調7.5YR6/6褐色 胎土緻密 焼成良好
10-14	土師甕	(19.0) <8.4> —	口縁部形「コ」の字形。 武蔵甕。	外面口縁部横ナデ 胴部ヘラケズリ 内面口縁部横ナデ 胴部ナデ	口～胴部1/4強残 色調外面7.5YR2/1黒色 10YR5/4にぶい黄褐色 内面10YR 5/4にぶい黄褐色 胎土緻密
10-15	土師甕	— <9.5> (5.2)	小さい底部。 武蔵甕。	外面ヘラケズリ 底部ヘラケズリ 内面ナデ	胴～底部1/3残 色調5YR6/4にぶい橙色 胎土 まれに粗い砂粒含む
10-16	土師小甕	— <9.8> (17.0)		内外面ロクロ横ナデ 底部回転糸切り	胴～底部1/2残 色調7.5YR5/4にぶい褐色 胎土緻密

※法量は上から口径・器高・底径。()は推定<>残高



16. 上芝宮遺跡V地区付近航空写真（協同測量社撮影1995.12.撮影）

佐久市埋蔵文化財調査報告書

- | | | | |
|------|--------------------------|------|---|
| 第1集 | 『金井城跡』 | 第25集 | 『上久保田Ⅳ』 |
| 第2集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1990』 | 第26集 | 『藤塚古墳群・藤塚Ⅱ』 |
| 第3集 | 『石附窯址Ⅲ』 | 第27集 | 『上久保田Ⅲ』 |
| 第4集 | 『大ふけ』 | 第28集 | 『曾根新城Ⅴ』 |
| 第5集 | 『立科F遺跡』 | 第29集 | 『山法師遺跡B・筒村遺跡B』 |
| 第6集 | 『上曾根遺跡』 | 第30集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1992』 |
| 第7集 | 『三貫畑遺跡』 | 第31集 | 『山法師遺跡A・筒村遺跡A』 |
| 第8集 | 『瀧の下遺跡』 | 第32集 | 『東ノ割』 |
| 第9集 | 『国道141号線関係遺跡』 | 第33集 | 『聖原遺跡Ⅶ・下曾根遺跡Ⅰ・前藤遺跡Ⅰ』 |
| 第10集 | 『聖原遺跡Ⅱ』 | 第34集 | 『西一本柳遺跡Ⅰ』 |
| 第11集 | 『赤座垣外遺跡』 | 第35集 | 『市内発掘調査報告書1993』 |
| 第12集 | 『若宮遺跡Ⅱ』 | 第36集 | 『蛇塚B遺跡Ⅲ』 |
| 第13集 | 『上高山遺跡Ⅱ』 | 第37集 | 『西一本柳遺跡Ⅱ中西ノ久保遺跡』 |
| 第14集 | 『栗毛坂遺跡』 | 第38集 | 『南下中原遺跡Ⅱ』 |
| 第15集 | 『野馬久保遺跡』 | 第39集 | 『中屋敷遺跡』 |
| 第16集 | 『石並遺跡』 | 第40集 | 『寺畑遺跡』 |
| 第17集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1991』（1月～3月） | 第41集 | 『曾根新城Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ
上久保田向遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅳ・Ⅶ
西曾根遺跡Ⅱ・Ⅲ』 |
| 第18集 | 『西曾根遺跡』 | 第42集 | 『寄山』 |
| 第19集 | 『上芝宮遺跡』 | 第43集 | 『権現平遺跡』 |
| 第20集 | 『下聖端遺跡Ⅲ』 | 第44集 | 『寺添遺跡』 |
| 第21集 | 『金井城跡Ⅲ』 | 第45集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1994』 |
| 第22集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1991』 | 第46集 | 『濁り遺跡』 |
| 第23集 | 『南上中原・南下中原遺跡』 | | |
| 第24集 | 『上聖端遺跡』 | | |

佐久市埋蔵文化財調査報告書第47集

上芝宮遺跡Ⅴ

1996年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒384-01 長野県佐久市大字中込3056
埋蔵文化財課

〒385 長野県佐久市大字志賀5953

TEL(0267)68-7321

印刷所 株式会社COX

